

特集 - 追悼 佐野ぬいさん -

# ありがとう ぬいさん。

弘前市名誉市民（◆）で女性画家の第一人者、佐野ぬいさんが昨年8月にお亡くなりになりました。

国内外で多くの展覧会を開催し、青の画家として評された佐野さんですが、故郷弘前市のことを忘れず、愛し続けてくれました。

今号では、追悼の意を表すとともに、佐野さんの活躍や評価を受けた多くの作品、そして人柄や弘前愛など、佐野さんの魅力の数々をさまざまな視点からお伝えします。

■問い合わせ先 秘書課（☎ 40-7022）

（◆）名誉市民…市民または本市にゆかりの深い人で、広く社会の発展および文化の興隆に貢献し、その功績が特に著しく、市民から深く尊敬されている人に贈られる称号です。

※ 2006年2月27日の市町村合併時に新設。

## ▶青の時間

（2014年／青森県立美術館蔵／74.0cm × 120.0cm）

市民会館のスタンドグラスのために、故郷弘前の情景をイメージして描き下ろした作品。弘前の空の青、りんごの赤、雪の白を思い出しながら描きました。



## 青の画家 佐野ぬい

佐野さんは、「<sup>ニユイ</sup> <sup>ブルー</sup>nuit blue」と呼ばれる独特な青を基調に、明快な色彩とフォルムで独自の世界を確立した日本を代表する洋画家です。

弘前市に生まれ、弘前中央高校卒業後、女子美術大学芸術学部洋画科へ入学。大学卒業後は、制作活動をしながら同大学で後進の指導にもあたり、第16代学長に就任しました。

画家としての活動では、「青」を基調とした作風で数々の賞を受賞したほか、国内外で展覧会を開催するなど、市民はもとよりたくさんの人々に芸術作品の鑑賞の機会を創出しました。これらの功績をたたえ、市は名誉市民の称号を贈りました。

市民会館開館50年を記念して制作したスタンドグラス『青の時間』は、現在も市民会館を美しく彩っています。



## スタンドグラス『青の時間』

“スタンドグラスの原画を描きながら、私は、津軽弘前のさわやかで<sup>すがすが</sup>清々しい雪どけの空を思い出していました。自然光が差し込むスタンドグラスのある場所は、さまざまな青を基本色としています。暖色系の明るい面積もあります。動く青い時間を楽しく、美しく眺めることが出来たら素晴らしいです。”



▲スタンドグラス『青の時間』（2014年／市民会館）原画、制作監修、ガラスへの絵付けを自ら手がけました。